

平成30年度

第1回駒ヶ根市総合教育会議

会 議 録

駒ヶ根市教育委員会

平成30年度第1回駒ヶ根市総合教育会議議事日程

平成30年4月27日（金曜日）

駒ヶ根市役所本庁舎3階第5会議室

午後3時00分 開 会

- 1 開会
- 2 市長・教育長あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 平成30年度事業の推進について
 - (2) その他
- 4 意見交換
- 5 その他
次回総合教育会議 開催予定：7月
・3カ年実施計画についての協議ほか
- 6 閉会

出席者

教育委員会

教 育 長	本 多 俊 夫
教 育 委 員	
教 育 長 職 務 代 理 者	北 原 美 香
委 員	下 島 公 平
委 員	福 澤 惣 一
委 員	唐 澤 浩

市長部局

市 長	杉 本 幸 治
総 務 部 長	小 平 操
民 生 部 長	猿 田 孝 弘

市長部局事務局職員

教 育 次 長	北 澤 英 二
子 ど も 課 長	北 原 純
社 会 教 育 課 長	小 出 孝 幸
教 育 総 務 係 長	山 本 和 重
教 育 総 務 係	小 松 義 知

会議のてんまつ

議事日程記載のとおり

午3時00分 開会

○北澤教育次長

総合教育会議に御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから平成30年度第1回の駒ヶ根市総合教育会議を始めていきたいと思ひます。

本日の進行を務めさせていただきます教育次長の北澤でございます。よろしくお願ひいたします。

それでは、最初に杉本市長よりごあいさつをお願いします。

○杉本市長

皆さんこんにちは。

本年度初めての総合教育会議でございます。今日の会議は、昨年度御要望いただいた予算等の説明をさせていただき、また新たな取り組み等がございましたら意見交換をできればいいのかなと思っております。

本年度予算の特色でありますけれども、特に教育委員会関係ですと、ソフト事業の関係では、英語教育コーディネーターの新たな配置ということで、いよいよ英語教育が小学校にも及びますので、そんな予算をつけさせていただいております。

それから、キャリアフェスを子どもたちのキャリアアップということで、地域にどんな企業があるのかを知ってもらうということで、昨年は東中学校で開催させていただきまして非常に好評でしたので、今年は赤穂中学校で開催をさせていただきたいと思っております。

それから、エル・システムですけれども、今年は東小学校から全小学校に広げていきたいと思ひますし、楽器も来年からさらに広げて、オーケストラに向けて幅を広げていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

ハード事業でございますけれども、一つは、赤穂小学校体育館の吊り天井の耐震化をやるので、これで学校の耐震はすべて終わるということになります。時間がかかりましたけれども、これで終わることができるのかなと思っております。

あと、給食の関係ですけれども、保育園、幼稚園にスチームコンベクションオーブンを入れさせていただいて、給食等のメニューの幅を広げ、作業の効率化を図ってきたいと思ひています。

それから、一番大きな事業が、いよいよ赤穂公民館の建替えにかかりまして、昨年来、多くの方のお話を聞く中で、大体基本的なところは詰まっておりますので、今後さらに実施設計の中で意見を取り入れていきたいと思ひます。おかげさまで、本年度の事業費に対する国庫補助の内示がございまして、この事業については、ほぼ予定どおり予算がつきましたので、予定どおりの事業が進められるのかなと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

そのほか、市全体ですけれども、今年はキーワードを連携ということにさせていただいておまして、一番はJ O C Aさん、青年海外協力協会ですけれども、駒ヶ根へ来ていただけましたので、いよいよ3月5日から、スタッフが今25名ほど来ていただいておりますので、その皆さんと一緒にやるごちゃまぜのまちづくりが始まる、それから石川県のかほく市と5月に新たな友好都市提携を結びますので、それぞれの部署でさらに交流を進めていければと思っております。

あとは、地域交流センターや駅前広場の整備によって人がつながるための環境整備について

行っていくといったところが特色なのかなと思っております。

今年も、ぜひ教育委員の皆様方には、駒ヶ根市の子どもたちが、何と言っても元気に育ってもらいたいと思います。また、先生方等も教育委員の皆さんと一緒にいる中で、駒ヶ根市の子どもたちの教育に一年間いろんな意味で御尽力いただきますことをお願い申し上げましてあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしく願いいたします。

○北澤教育次長

続きまして本多教育長よりごあいさつをお願いいたします。

○本多教育長

改めまして、こんにちは。

連日の御出席で、ありがとうございます。

今朝もそうでしたけれども、ぼつぼつと田んぼに水が張られて、そこに、私の大好きな景色ですが、駒ヶ岳が映る、そんな景色を見られる季節になりました。島田娘も早く準備をせえよと言っております。自然が一番色を發揮する時期かなあと、そんなふうに思います。「目には青葉 山ほととぎす 初鰹」もそうですし、「あらたふと青葉若葉の日の光」なんていうのは、すべてこのシーズンでしか味わえないなあという、そんなシーズンに突入しているかなあという、そんな思いがあります。そんな自然でありますけど、駒ヶ根にはとても豊かな自然があるわけですけど、これにどっぷりつかからないでは大変もったいないなああと、自然がだんだん人工に移っていく、これを指導していくのが教育だなと思っておりますけれども、また、ちまたでは創造力というところを求められるわけですけど、こうした時に小さいころの経験がない、つまり、大人になっても幼児性がないと創造力は絶対に働かないというのは、もう研究結果で出てきております。こんな豊かな自然がある中で、徹底的に遊ばせなければもったいないなああと、そんなふうに思っております。教育は持っていく方次第だなあと思っております。

お世話になります。よろしく願いいたします。

○北澤教育次長

それでは、お手元に次第に従いまして会議を進めていきたいと思っております。

最初に平成30年度事業の推進についてですが、年度初めでございます。駒ヶ根市教育大綱を踏まえまして、本年度の事業の推進の方針、また予算に計上されました主な事業について確認をしていきたいと思っております。

最初に本多教育長より本年度の教育委員会基本方針等について御説明をお願いします。

○本多教育長

よろしく願いいたします。

教育大綱並びに平成19年度に駒ヶ根市で策定されております子育て10か条等を受けまして、私なりにまとめたつもりでございます。

育てたい子どもの姿でございます。これはイコール駒ヶ根市教育の根本につながるかと思いますが、毎回同じようなことを言ってお恥ずかしいですが、内から育つひたむきな子、駒ヶ根の子ですが、将来的に本当の自立を目指して、そんな子に育てたいなあという思いがございます。

「内から育つとは」と書いてあるところの真ん中ほどに「先生や大人から言われたことだけ消化する受け身の姿ではなく、「自ら求める心を持って追究する資質・態度」(内) が育っていれば、

生き方の軸がぶれることはない。時流に迎合することがない。」という、大変お恥ずかしい話ですが、私37年間の教員生活をやってきて最終的に得た結論であります。これをしなければ、どんなにすばらしい授業も、あてがわれていただけでは、その本人の内からの気持ち、心向きのほうを育てていかなければ到達しないなあと思っているのです。こんなことを申し上げました。「取り組みの重点」のすぐ上に「外からではない内からである。『学びは日々の生活の中にある。』」と書かせていただきました。

では、実際にどんな取り組みをやるのかということですが、四角で囲んであります右側に豊かな情緒、本質、ゆとりと連携と、やはりある程度の段階で相互補正しながら、こういう関係になっているかなど。整えるっていうことを最初の豊かな情緒でいったとしたときに、豊かな情緒と笑顔の環境づくり、本質のときには、やはり続けていくという中から当たり前を見直して、自らやり抜く本質に近づいていく、高めるっていう意味では教育の先見性と連携というもので教育の連携の中身まで高めていくということでもあります。

このようにして研ぎ澄まされた子どもたちになっていってもらえればいいなあと思っているところでもあります。

具体的なということですが、今の整える、続ける、高めるという中の整えるで、特に本年度は、幼児教育の充実、十二天の森の活用と充実、十二天の森だけに限るのではなく、十二天の森を中心にしながら、自然保育あるいは自然教育ということ力を入れてまいりたいなあと考えております。

次に、「続ける」の少し前に、「生活科、総合ができた理由」と書いてありますが、これは2つございまして、1つが失われた子どもの生活を取り戻すというのが大きな一つの狙いでありまして、もう一つが教師の限りなき人間性の追求、この2本で生まれてきました。四角の中に囲まれてあります唐木順三さんが言ったことをそのままここに書いてあるわけですが、やはり自然との連携の中に日本人は本来住んでいたのだという、そういう大事なところを見失いつつあるので、総合や生活ができたときのところにまた立ち戻ることが大事じゃないかなっていうことをここで言いたいわけでございます。

次に、「続ける」でありますけれども、この中でも、将来の底力につながるということで読書。読書っていうのは、どこに行きましても、日本中、世界中で言われていることですが、すぐに結果が見えません。何ページ読んだ、何冊読んだ、こういう分野を読んだからこういった力がついたって、そんなこと誰も証明できませんけれども、間違いなく力としてついていくものだと思います。読書を否定する人はほとんどいませんけれども、10年くらい続けてから善し悪しを判断してもらいたいなあとというくらい気の長いことですが、とても大事なので、今駒ヶ根市でやっていることもぜひ継続してやっていきたいと思っております。

次に、授業のUD化でございます。ユニバーサルデザイン化でございますが、これは深い理解力につながるということで、普段の授業をユニバーサルデザイン化することは、そのままインクルーシブにつながりますので、毎日の授業の見直しをしっかりとしてもらいたい。簡単にいいますと、先生がどんどん早口で進んでいってしまうので授業がわからなくて通過していく子どもがいる。その子にもわかるような授業をすることは、どの子どもに対しても通じる、つまり特別支援のお子さんにも通じるということで、根幹では通じておるものであります。時間はかかりますが、これが波に乗れば、大変無駄のない授業といえますか、効率的な授業も当然できますので、

駒ヶ根市は3年続けてユニバーサルデザイン化ということでしっかりと続けてきていますので、そろそろ実践で徹底的にやる時期かなと思っております。

次に、高めるであります。幼稚園・保育園児、小学校低学年の徹底した遊び込みということで、十二天の森を3世代交流の森に、交流の場、交流の森にできれば、生き生きとした市、また場所になるのではないかなと思っております。心の情操につながるということで、とても大事なことかなと、子どもたちの遊びの場、小さいお子さんを持ったお母さんもそういう場を選べるようになっていけばとてもいいのではないかなあと、十二天の森に限らずいろんな森同士での連携もしていくことで、自然に子どもたちに身に付くものが期待できると思います。

最後でございますが、社会力の育成というのをその四角の下に書いてございます。これは私がつくった言葉ではございません。新しい言葉ではなくて、平成17年18年に長野県から出ております。「0歳からの信州子育てのために」あるいは「子育てのために」ということで、どこかで見たことがあるのではないかなと思っておりますが、これが県から出ているのですが、改めて読んだときに「おお、14年前にこんなすばらしいことをやっていたのか。」と思うのですけれども、現実、浸透しているかって私思ったときに、こんなすばらしいことが出ているのに、ちっとも地についていないじゃないかっていうことを思いました。情報とか徹底ってということが足りなかったのではないかなと。当たり前のことも含めて、難しいことを求めるのではなくて、脚下照顧で足元をもう一度見つめ直して子育てを考えるべきじゃないかと思っております。これからの子どもたちにこそ、社会力を育てる中身について、「この力を育てることは学力の向上に必ずつながる。」と当時長野県の指導していただいた先生も言っております。それはもう私もそのとおりで思っております。

長くなって申し訳ございません。整える、続ける、高めるということをしていく中で社会力の育成につながればと話をさせていただきました。

以上です。

○北澤教育次長

それでは、事務局より平成30年度の主要事業について簡単に説明させていただきます。

本日は平成30年度の教育委員会主要事業取り組み関係の資料で説明をさせていただきます。

1の学校教育の推進でございます。

(1)から(3)まで記載があります。

(1)は学力向上を図りますということで、学力向上について重要課題ということで進めております。

イ)からニ)までありますが、イ)で、市単独で専科教員や外国語指導助手、ALTを配置してきめ細かい学習支援を行っております。本年度はALTを1名増加し、ALT3名で英語教育を進めている状況でございます。

以下、引き続き学習支援ボランティア、また標準学力テストを継続して行い、また内容について本年度の中でも今後のことについて見直しを考えていければと思っております。

ニ)については、ユニバーサルデザイン化のこと、読み書きについて記載があります。

(2)に地域に開かれ地域に支えられる学校づくりを進めますということでイとロと記載があります。

イのコミュニティ・スクールの推進につきましては、地域との連携ということで学校運営にか

かわっていただいている保護者の方も含めまして行っているわけですが、指定校については、小学校5校すべてが始まっております。平成30年4月から赤穂小学校が始まっております。

また、準備校として、本年度、東中学校が30年4月からということであります。中学校でできる内容について検討を進めていければと考えています。

ロのキャリアフェス i n 赤穂中学校の開催ということで、昨年、東中で11月24日に開催しまして、生徒が約200名、また東伊那小学校の児童も45名参加し、企業、地域団体、生徒が参加、25ブースをやりまして、自分の進路や地域、ふるさとについて考える機会となっております。今年は赤穂中学校で開催できればと考えています。

(3)の安全な学校施設の整備につきましては、イ、ロ、ハとあります。つり天井等、赤穂小学校の南校舎のトイレの改修を進めていきます。

次の2ページをご覧ください。

幼児教育推進の部分では(1)から(6)まで記載してあります。

(1)は体力、運動能力の向上ということで、イの中に外遊び、群れ遊びの推進、また運動遊びの実施ということであります。ロの部分については、十二天の森の活用ということで、市内の13保育園、幼稚園、私立の幼稚園も含めまして、すべての保育園、幼稚園が信州型自然保育の認定を受けまして、福岡保育園については年間30回以上、南小についても頻繁に使っている状況であります。こういった事業を広めていければと考えております。

(2)は子育て世代の支援を充実ということで、「きっずらんど」「まあるくなあれ♪」「あそびのもり」等、各々機能分担する中で進めていければと思います。

(3)については、ご覧のとおりであります。

(4)の少子化対策については、子育て世代の負担軽減ということで、特に保育料の軽減を図ってきているところであります。イからホまでありますけれども、イが同時入園でなくても第3子50%、第4子以降無料、またロは、未満児保育料について各層上伊那の平均程度ということで記載をしてあります。平成31年10月の消費税導入に伴い幼児教育無償化の部分が検討されていますが、情勢の不安定な部分もありますけれども、そういった部分も見据えまして、他市町村の状況も見て対応していければと思っております。基本的に、駒ヶ根市は低所得の方の部分が手厚くなっている状況であります。

(5)(6)については、引き続き進めていきたいと思っております。

3ページをご覧ください。

3の子育てに喜びを感じる家庭づくりの部分では、放課後の預かり、あと子育て情報の提供ということで記載があります。

4番の安心して産み育てることのできる環境づくりの部分では、出産後の育児不安、体の不安定の解消等、不妊治療の部分も継続して実施してまいります。

5の音楽を通じて生きる力を育む事業、エル・システム事業であります。平成29年度、赤穂東小をモデルに実施しまして、28名が参加し31回の教室を開催しまして、今年度は全小学校の児童に拡大し、子ども音楽祭の開催等11月17日を予定しています。

4ページをご覧ください。

6の生涯学習活動の推進で(1)から(3)まで記載があります。

(1)については、教育長さんの話にもありましたように十二天の森の設備、活用ということ

で、赤穂南小の児童より提案をいただいている部分についても半分以上できている状況であります。こういった意見を聞きながら子どもたちや市民が活用できる整備を進め、また、本年度はため池の整備の方法についての検討をしていきたいと考えています。

(2) の社会教育施設の整備を進めるということでイからハまでありますが、特にイの地域交流センター（赤穂公民館）等の施設整備の事業を推進していければというふうに考えています。老朽化している赤穂公民館を、小ホールも含め、つくし園を併設して新築するというので、現在、基本設計から実施設計に移ってきている状況であります。

7の文化財の保存、活用、文化・芸術活動の推進の部分では、(1) から(3) まで載せてあります。

特に(2) の創造的な文化芸術活動を進める中のロですけれども、文化力をとということで駒ヶ根市の第4次総の部分の基本目標として文化芸術振興指針をとということであります。昨年度も11人のメンバーで4回、文化芸術振興懇話会を開催してきましたが、引き続き30年度も懇話会を開催し、指針の策定に向け検討していければと考えております。

(3) についてはフットパス等も含めましたふるさと学習の実施ということで、郷土愛を育む活動を進めていきたいと思っています。

最後に8のスポーツの推進の部分では、(1) と(2) と載せてあります。

(1) の中では、かけっこ教室を継続し、また、今年からかけっこ検定を東位伊那小学校をモデルで実施しているところであります。

(2) の国民体育大会への対応につきましては、平成39年度開催の長野国体の部分の駒ヶ根市の会場種目ということで、4月20日に県の会議がありましたけれども、今後、協議開催希望の部分の取りまとめがありますので、そういったものも取り組んでいければと考えています。

ここにはちょっと記載がありませんけれども、予算とは別に高校再編についてですが、県教委で進められていますが、現在、旧第8通学区である上伊那でも上伊那地域の高校の将来像を考える協議会の設置を検討しておる状況でありますし、3月15日には上伊那の8市町村長の連名で上伊那地区における高校教育の現状について県教委に具申がされている状況であります。本日、資料として3月に県教委から提出されました高校改革実施方針について、旧第8通学区関係を中心に抜粋をしてありますが、参考として御確認いただければと思っております。

私からは以上であります。

それでは、ただいま説明のありましたことにつきまして意見交換をさせていただければと思っておりますので、教育委員さんから御確認いただければと思いますがよろしくお願いします。

○下島委員

それでは、コミュニティ・スクールの関係ですが、少子化の中で、逆に地域としては高齢化を迎えているということで、地域に開かれた地域との結びつきができるこのコミュニティ・スクールは非常にいい制度だと聞いていますし、具体的に取り組んできて、その効果が本当に出ているなあという気がします。

そこで、高齢化の中では、やはり地域の皆さん、非常に人生経験豊かな皆さんでありまして、声がかかると、相当にやりがいを感じて協力をいただけるということで、この高齢者の皆さんの力をこのコミュニティ・スクールへぜひ取り込んで、これが一つの成功する鍵ではないかなあと思っております。

ボランティア的な要素が多いこのコミュニティ・スクールですけれども、やはり進めていくには、費用、財源も必要で、それが有効に生きるように、平成30年ばかりじゃなく、31年以降も、このコミュニティ・スクールを進めるに当たって、両面でのバックアップをお願いしたいと思います。

○杉本市長

おかげさまで、中沢小学校の取り組みが文科省から表彰され、そのお祝いの会に行ったのですが、大盛り上がりで、あんなに大勢の人が関わっていると思わなかったです。農業体験やなんかは、みんな昔の農業を教えてやって、逆に子どもたちが、さっき教育長さんが言われた力、本当に自分から何かをやりたいという部分、改めていろいろな人と接しながら自分で体験していくことの重要性を感じたので、このコミュニティ・スクールをさらに充実していきたいと思います。

今は、講師等をしてもらったときには、学校支援ボランティアと同じような形で1回幾らかの支援をさせてもらっているんですかね。

○北澤教育次長

そうですね。1,000円です。

○杉本市長

1,000円ですか。もし、これからもいろいろ事業をやっていくのに必要があれば、また幾らかでも予算化して行って、こういうことは充実していくべきと思っています。

今、東伊那はどうですか。

○福澤委員

現在、立ち上がって進めているところです。この間も1年生の送り迎えに先生が手いっぱいだったということで、みんなで割り振ってついていきました。

○杉本市長

今年、赤穂小学校がこの4月から立ち上がったんですかね。

○北澤教育次長

そうです。

○杉本市長

これで小学校は全部だから、それぞれ先輩のところをまねしてもらって、教育長さんも言う力ということで、非常にいいことと思います。

○北澤教育次長

校長裁量の予算も小学校各校10万円、中学校は15万円という形で、市長さんの言われた学校支援ボランティアの部分も学習支援の方を中心に支援をしておりますので、そういった部分で進めていければと思っておりますのでよろしくお願いします。

○福澤委員

それでは、キャリアフェスのことで、昨年、東中学校でかなりの成果が上がったと思っておりますけれども、今の社会情勢から行くと企業も人材不足で、とにかく人を集めるのが必死だという形で、企業も必死だと思います。東中の場合、規模からして去年はちょうどよかったという感じがしますが、赤穂中学校の場合、人数の規模が大きくなりますので、どうやって進めていくのかなということ、また継続してある程度行っていかないと意味がないということもありますので、どう進めていったらいいのか、何か方向性があったら教えていただきたいと思いま

す。

○北澤教育次長

まだ具体的には決まっていないのですが、東中が200人規模で、赤穂中学校が760人規模なので、やはり東中学校と同じことはできないので、大規模の春富中とか、そういった部分も参考にさせていただいて、具体的には進めていければということと、東中学校で生徒の実行委員会がありまして、その実行委員の人たちも赤穂中学校に来て一緒にということも言っておりますので、昨年の成功体験も含めて一緒にやっていければということで聞いております。具体的にはこれからですので、教育委員さんから何か御意見があれば、お聞きして伝えていければと考えております。

○杉本市長

私が、このキャリアフェスをやらなきゃいけないなあと思ったのは、経済界の皆さんが郷土愛プロジェクトというものを始めたのですが、その一番のものは、中学校の先生が地元の企業を知らない。今、人材不足と言っているけれども、企業側もこんなに知らないのかということで、やはり中学の時期くらいから自分が何をしたいかという動機づけをするためにも重要だと思うんです。地元こんな企業があって、将来ここで働きたいと思えば、高校進学の際にそのための準備ができると思うんですね。今、企業の皆さんと意見交換すると、あいさつのできない子どもが多過ぎるので、まずあいさつから教えている。また、もしできるなら、自分たちも幾らかでも高校に行って先生たちに教えて、即戦力にしたいという、そんな話をされていて、ちょうどそれが一緒になったので、郷土愛プロジェクトを高校で始めて、初めて高校の先生たちが地元こんな企業があると知って、そもそもその一番の原因は、先生たちに地元の先生がいないということなんですよね。今年から教育委員会の大きな改革の一つとして教員採用試験を4ブロックでやるようになったので、これから少しずつ変わっていくんですかね。ですから、やはり地元のことを先生たちにも知ってもらって子どもに接するのと知らないで接するのは、ものすごく大きく差が出てしまうので、私は、実は、子どもたちに知ってもらうことと、先生たちにも地元の企業を知ってもらうということを目的としてしっかり持ってもらう、先生たちが、ああ、この子はこういう芽を伸ばしたいと思っているというようなものが見えてくれば、「君は頑張っているから、駒ヶ根にもいい企業があるから、ここで働いたらどう。」と、動機づけしてもらいたいと思うんです。今、大学へ行って地元へ戻ってこないと言いますが、全然そういう動機づけをしていなので、何もしないでは戻って来てくれないので、そういう意味でも、このキャリアフェスというのは、生徒だけでなく、先生たちにももっと地域のことを知っていただく気でやってもらいたいと思っていますのでお願いします。

○北澤教育次長

そうですね。やはり地元を先生方に知ってもらうということも非常に大事で、昨年やった東中学校のキャリアフェスに、ほかの小学校とか、違う栄養教諭の先生方とかも行ったわけですが、それを見て、今度南小でキャリアフェス的なことを何か自分たちがやってみたいということで先生方から御提案をいただいて、食育のキャリアフェスということで、地元の企業とか、農産物を納めていらっしゃる農家の方とか、そういった方も入って行きたいと先生方から御提案をいただいておりますので、できる範囲の中でやっていければと考えております。

○杉本市長

あと、夏休みに親子で企業訪問というのも始めさせてもらいました。やはり子どもだけでなく親にも地元の企業を知ってもらわないといけないし、今、有効求人倍率が、1.7位ですけれども、企業が人材を必要だとしても、あとは、企業誘致をしたくても働き手がいなくなると、そこで終わってしまうので、本当に本腰を入れないといけない。ただ、残念ながら少子化は確実に進んでいて、駒ヶ根市で昨年1月～12月で生まれた子どもの数が236人なんです。我々のときは700人位ですからね。本当に真剣に考えていかないと、それこそ市がもたなくなってしまうし、少子化対策を一生懸命やっているのだけれどもなかなか結びつかないので、そうなれば、今居る人たちに地域を担ってもらうことを今後していかななくてはならないと特に思っていますので、これからさらに力を入れていくように、実効性のあるように進めます。

○唐澤委員

それでは私から、幼児教育についてですけれども、先ほど教育長さんも自然の中で遊ばせることがすごく大切ということをお話されていましたが、ここでも十二天の森などの活用ということで、この信州型自然保育のホームページを見ると、事例がたくさんあるようで、幼児期や小学校の時期に、こういう土だとか森林で体験することはすごく大事なことだし、それがふるさとを愛する心につながっていくのかなと思っていますけれども、実際にさきほど聞いた十二天の森の利用例だとすると、近くの福岡保育園や南小は頻繁に使っているみたいですが、ほかの学校や保育園に関しては、年に1回バスで行く程度な感じでしたので、もう少しまくできないかなと思います。予算を見ると、十二天の森を活用した園外保育ほか、ほかも合わせて122万円で予算があるので、専門知識のある方と一緒に何かをやるとか、地元の高齢者の方と一緒に何かやるとか、そんなような体験ができればと思いますけれども、何かそんな具体的な案があればお聞きしたいと思います。

○杉本市長

教育長どうですか。

○本多教育長

今、唐澤委員さんがおっしゃるとおりかなと思いますけれども、まず林に入ってみて、今をよく見てもらいたいと思います。そうすると、その中に「これは何。」といったときに「ああ、これはザゼンソウだよ。」というような、ここは大事にしたいなというように、自分たちから「ああ、こんないいものがあるんだ。」とわかったときには、自然に囲うようになると思うんです。大変失礼だけれども、最初に入るだけでもいいと思うんです。入りづらいついていうけれど、市やなんかにお願ひして整備したら入れるようになりましたっていうのは、これ受け身以外の何物でもないなあと思うんですけれども、そうしたら、そういう実態を伝えてくれればいいし、じゃあ自分たちでも伐採してくれますかというようになっていけばいいですし、まずは自然を知ることからやらないと。ただ簡単にとりかたりだとか、いいものを持っていったりということは大体すたれます。一年持つか持たないか。でも、やはり自分たちがこうしたいっていうものは最後まで残るなあとしますので、何かそういうアイディアを出すためにも現場に少しでも足を運んで、まずは素晴らしい自然に触れさせて、その積み重ねの中から赤穂南小のような11項目が出てくるのかなと思います。

○杉本市長

今、保育園でも支援ボランティア制度を取り入れさせていただいて、まさに小学校のコミュニティ・スクールと同じような形を保育園の中にも入れていく、あとは、どうするかというのは教育長さんの先ほど話してもらったとおりでと思うので、しばらくは教育長さんの考え方でやってもらって、最低限のものがあればそれから整備をしていけばいいのかなと思っています。

ノーベル賞をもらう人たちがどういうところで生活していたかっていうのを調べたものがあるって、自然豊かな中で育った人が多いんです。やはり自然の中において、そこの中から何かがしたくなるっていうのは、やはりああいう自然なんですよ。

木下五郎さんも駒ヶ根に来たら創作意欲がわいた、加島祥造さんが駒ヶ根に来たらどんどん何かを書きたくなってきたっていうふうに言われるので、やはり、そういうものっていうのは自然の中から出てくるんですかね。

私たちの世代って、触れるも触れないも、それしかなかったから、自然の中で発想するしかなかったから、子どもの時間もあつたし、その中で自分たちにできることをやっていったりして、自然の中でいろいろやったので、土地を離れていても、また農家をやろうと思えばできるんですけども、今の子どもたちにそういう実体験をさせておかなかつたら、今度は大きくなって何かやれと言っても、農業とかやれなくなってしまうと思うので、ぜひ、そういう点では、自然の中で何か自分たちが体験することってものすごく重要な意味があると思うので、十二天の森は、市で購入させていただいておりますので、ぜひ、教育委員の皆さん方には議論させていただいて、この十二天の森を駒ヶ根市の子どもたちの森としてぜひ育てていってもらえたらと思います。今、余り手を入れてないので、ため池のところ安全性という問題など、そういうところはやはり調査しなくてはいけないので、そういうことはやりますけれども、また教育委員さんたちもぜひ中へ入ってみてもらって、教育長さんの考え方でいいと思いますので、それを進めてもらいたいと思います。

行く方法やお金のこともあると思いますけれど、市にも車を用意してありますし、さきほどの保育園の支援ボランティアの皆さんが関わっておられれば、そういった皆さんと一緒にしてもらおうなどしていかないと、なかなか回数は増えないと思います。理想は、雨が降らない限りは、十二天の森に全部行ってもらえればいいんですけどね。雨が降った日だけ園舎に戻る。園舎のない保育園、何で保育園の子どもはあの園舎の中にいなきゃいけないのか。そのためには十二天の森を使う。雨の降った日だけ園舎へ行けばいいくらいに大胆にやってもらいたいです。あの中で食べたりしてくれば、先生じゃなくて自分で何でもやらなきゃいけないっていうようになるのではないですかね。内から輝く人間になると思います。

○本多教育長

最後に市長さんが言われた雨のときだけというのは、退職するまでお世話になった伊那小の30年前が、こういう天気のいい日に教室にいと、校長が「出ていけ。外へ行け。雨のときだけでいいんだ。中にいるのは。」と言ったそうです。今ふと思い出したのですが、最初は、そのくらいの気概が大事だなんて思います。

幼稚園のボランティアも含まれて、そんなにお金かけないであの中に3世代交流できるログハウスみたいなものがあればね。

○唐澤委員

市長さんから教育長さんからそういう御意見を伺ったので大変ありがたいなあと思います。

○杉本市長

やはり、でき合いのものよりも、ああいう中だからみんなで作ったほうがいいかなと思うので、色んなアイデアを、また教育委員さんとして出してください。本当にみんなで育ててもらいたい。あんなね、平地林ですごい森を持っているところはどこにもないです。だから、かえってみんな戸惑っているようだけどぜひ生かしてもらって。

○福澤委員

少子化というようなことで、先ほど市長さんから話がありましたが、昨年の新生児が 236 人だということの話がありましたけれど、地域によって格差があったりして、それで、地域の考え方っていうのはいろいろあると思いますが、やはり、みずから暮らしと地域が、子どもが減っていったらっていう危機感ほどのくらいあるのかなと、「減っちゃった。」と言っているだけで本当は区長さんあたりが一番危機感を持ってもらって、地域のみみんなで考えていこうっていう形をつくらないと、若い人たちがそこに残らないとか、子どもが生まれないという話になっていくと思いますけれども、ですから、やっぱり区長会あたりでね、強く、現実をよく言ってもらって、それで、駒ヶ根市もこういう状態だっていうことをPRしてもらいなあと思います。

それと、保育料についてですけれども、保育料の軽減ということで、かなり踏ん張っている感じはするのですが、結婚していない若い人たちと話をすると、他地域のほうの保育料が安いというようなことをよく聞きます。駒ヶ根市は子育ての特色をもっとPRをしないと、これから結婚しても、「他地域へ家を建てたほうがいい。」とか他地域のアパートへ行くとかいう形にもなりかねないので、ぜひ強く駒ヶ根市としても、子育て環境の整備はできているということをPRしていただきたいなあと思います。

○杉本市長

今の話について、十二天の森をそうしたいと思うんです。保育料もそうですけれども、質、中身として他ではできない駒ヶ根市の保育、何か自然の中で遊ぶことをたくさんやっているんだっていう。富士見町の自然保育をしている幼稚園などに都会のほうから来て、その保育園へ入れたい。長野県の中島副知事はそのリーダーですかね。やはり長野県の良さというのは、自然保育がまた新しい魅力になるかなと思っています。

保育料は、上伊那平均にするということではやってきていますが、PRが余り足りないかもしれませんのでPRをします。ただ、国が消費税を上げたら無料にするという方針を出してきていますので、その辺の動きもあるのかなと思いますので、保育料のみじゃなくて、やはり保育の質、駒ヶ根市はこんな保育をしているという意味では、あの十二天の森を使った、平日はみんな外へ行くというようなこともあわせてPRして行って、駒ヶ根市にくると、保育園やなんかでも自然の中でやってくれる、そういう魅力も高めていけたらと思います。駒ヶ根市らしさはいろいろなところで出していきたいと思っています。

○福澤委員

魅力ある駒ヶ根の子育てで、出ていった者が返ってくるというような形をつくることは一番効果的じゃないかなと思います。

○杉本市長

保育料も一時高かったので一気に上伊那平均まで下げました。それが浸透していないところがあって、高いと思われていて。駒ヶ根は、低所得のところをかなり手厚くしています。

今、地域間で、選ばれるということになると、一つだけじゃなく総合的に見なきゃいけないのかなと思います。やはり医療が充実していることが大きいところになると思います。子育てするお母さんからすれば、医療が充実しているとか、普段行ってお母さんたちが集まる場所があるとかね、保育料ばかりではなくそういうことも結構大きいと思いますので総合的にやらないといけないので、また教育委員さんたちも、いろいろな方の意見を聞いていただいて出していただければと思います。

○北原教育長職務代理者

エル・システムについて、すごい事業ということで注目されているところだと思うのですが、一年間の取り組みの成果ですとか、結果なんかをお聞かせいただければということと、今年は、もう始まっているのでしょうか。

○北澤教育次長

東小学校の子どもさんも始まって、途中から全学校に広げていきたいということで、体験的なものを、また6月ころ始めるように考えています。

○北原教育長職務代理者

先ほどのごあいさつの中に楽器を広げていただいただけじゃなくてということで、予算を見ますと、かなり予算もとってあるので、だんだん広がっていけばいいのではないかなと思っておりますけれども、子ども子どもでいられる期間は限られていると思います。前に市長さんが、5年間でオーケストラをつくりたいというお話も伺っているのですけれども、その5年後に、その子が子どもでいるかという始めた時期によってははないかもしれないので、1年ごとに何か成果が出て、子どもたちが満足できたというようなものを打ち出していくといいのではないかなと考えています。子どもがそのステージに立って本当に満足ができるというか、自分の力だけでは余り弾けなかったけれど、みんなとやってみてという喜びがあらわれてくるような音楽会をつくり上げていただけたらいいのかなと考えています。

親御さんにも、これを通じて忍耐力とか協調性とか自己表現を育てていきたいということが浸透できればいいかなということも含めて広げていけたらいいなと思っております。

○杉本市長

今年、どこかで全国のところへ行きますよね。

○小平総務部長

東京の芸術劇場の舞台へ行きますが、保護者の皆さんへ最初に説明会をして、この意味は何なのかということと、あと、保護者会をして、最後に、じゃあどういう評価をするのか、一年間どうでしたかっていうこともやっています。それで、基本的にみんなですることですし、どんな家庭の状況であっても、どんな人も、誰でも全員受け入れてやりましょうというのがもともとの基本ですので、そういうこともあって、実は、これは全国から寄附とか支援をいただいてやっていますということもお伝えしています。ですから、お貸ししているバイオリンも、私どもで買った部分もありますけれども、基本的には全国から寄附していただいていること、エル・システムという事業に賛同していただいて、子どもたちが駒ヶ根でやることに賛同していただいて、それでやっていますということもお伝えしています。

それから、一年間の評価ですが、最後に教室での発表会をいたしました。やはり、みずから弾ける段階もありますけれども、それぞれが、成果といいますか、達成感を持って最後までやれたということもありますし、そこでお父さんお母さんに聴いていただいて、保護者の意見等を踏まえて一定の評価はあったのかなあということ、それから、次年度以降は、もちろん子ども音楽祭という、できれば文化館の大ホールで大勢の皆さんに来ていただいて、そこでPRするのがありますけれども、その舞台に立つということ等、やはりその程度ではいけないので、今年は東京の芸術劇場の舞台に立って、みんなでやったという満足感というのも計画をしていますということです。

それと、以降継続するために、やはり自走していけるシステムの仕組みとしては、当面は補助金とか、あるいは寄附、寄附は今まだあるかわからないですけれども、そうした全国の支援というものの仕組みをつくっていきたい。一般社団法人の東京本部のシステムジャパンとの連携、協定に基づいてということになりますけれども、その仕組みづくりも踏まえていこうという計画になっています。

○杉本市長

先輩の相馬市は、ベルリンフィルと一緒にやりましたね、5年後に。

○北原教育長職務代理者

そういうのができるといいですね。そういう取り組みはとてもいいと思います。

○杉本市長

そういうふうにしたいと思っています。この間、NHKの「ラジオ深夜便」という番組で、相馬市でエル・システムを補助してきたというバイオリン教室をやっている女性の方がいて、エル・システムで「ぜひ一緒にやってください。」と言われて、指導者で入って行ったら、全然個人レッスンしないで、みんなでやる。それで、みんなで楽しむ音楽をやろうということはずっとやってきて、そしたら子どもがこんなに伸びていく、やめる人もいないし、それでびっくりして、さらに、そのプロのベルリンフィルの人に教わったら子どもたちの伸び方が全く違うという。それで、駒ヶ根でやっている小学生が運命を弾いたよね。聴いてびっくりしました。聴いたんですよ。

○小平総務部長

私は東京で見ました。

○杉本市長

将来的には、本当に音を楽しむっていう、そういうことですかね。日本の場合、どっちかというと個人レッスンが主体なので、その先生は、個人レッスンをしなくてはいけないと思って行ったら、そういうことを一切やらずにみんなで楽しみながらやる。だから、それが「目からうろこ」だったと言っていましたね。それで、なおかつ、ヨーロッパの本当のプロの人たちがやると、また全然違うそうです。本当に一緒にやると、音をどんどん出すようになる。私も感動したのは、あの音楽会をやったときに、ほんのちょっとしかやらない子どもたちから、あれだけのきれいな音が聞こえたので本当にびっくりしました。

この間のこどもまつりのとき、教えている人が来てくれて、「バイオリン弾きませんか。」と言って、初めての子どもが、何か円を、赤、黄色って弾いていると、その弾いているのに合わせて曲を弾いてくれて、終わった後に何か演奏会と同じような気分になる。ああいう教え方をするんだ

など思ってびっくりしました。

○北原教育長職務代理人

ジュニア和楽器隊は、まさにその通りで、個人レッスンは一切ないですから、みんなでやると、弾けない子は弾ける子を見ながらまねをするんです。なので、年齢の大きい子が初心者で入ると、小さい子のまねをするので、小さい子がすごく得意気に「私のほうが弾けるでしょう。」みたいな顔をするんです。でも、そこで上下関係は全然関係ないので、子どもたちはすごいなといつも思っています。

○杉本市長

相馬市は、子どもが発展したから、大人もやりたいと大人も始めたんですよ。

○小平総務部長

保護者の皆さんも一緒にやっていますよ。時間はかかるって言っていましたが。

○杉本市長

音楽って音を楽しむっていうことだなと思いますね。エル・システムって。

○北原教育長職務代理人

最初に理事長さんがそういうふうにおっしゃっていましたので。

○杉本市長

この間、エル・システムを始めた方が亡くなられましたね。その方は、すごく貧困なベネズエラで子どもたちに夢を持たせようと、楽器を持って世界一になろうということで始めて、楽器は無償、何でも無償、普段やることがないと、どうしても悪い道に行ってしまう。でも、練習して楽しいと、そこから悪い方へ行かなくていいじゃないかと始まったらしいです。20年30年かけて。私たちも、子どもたちを何かに熱中させるということは非常にいいことなので、その一つとして。

それも、縁は、ここにJICAの訓練所があるということで大使の皆さんに来ていただいて、ちょうど私行っていたら息が合ったのか、東京でベネズエラから来て、当時、民族楽器、アルパとクワトロとマラカス、あともう一つ、箱のようなものをたたく4人の演奏会があるので「ぜひ東京へ聞きに来ませんか。」と言うので、行ってみると、そのマラカスの人が世界一の人で、マラカスってこんなにすごいものかと「目からうろこ」でした。それは20代の人たちで、感動しちゃって、「ぜひ今度は駒ヶ根でやってもらいたい。」と言ったら、何と翌年、その全国の大都市だけを幾つか回るグループが駒ヶ根に来てくれて、もう5回来てもらってしまっていてそれが縁なんです。

そのうちにエル・システムというものがあって、エル・システムで育った人たちの演奏会へ来てくれということで、行ってみると200人のオーケストラ、音のすごさに圧倒されて、その後は100人になりましたけど、それも小さい子どもたちだけ。それで縁がつながりやらせてもらったんです。それで、日本でできないかと思ったんですけど、日本にエル・システムで相馬市がやるということで協会ができこれも本当に縁です。ですので、また広げてもらって駒ヶ根市でもそういうものができてくれればいいんじゃないですかね。

○北原教育長職務代理人

ホームページなどで大槌町や相馬市は見させていただきましたが、駒ヶ根らしいものが育っていけば良いかと。

○杉本市長

この前言っていたように、駒ヶ根は駒ヶ根らしくと言っていたから、教育長さんのほうでもお願いします。

○北原教育長職務代理者

ありがとうございます。

○北澤教育次長

では続きましてお願いします。

○北原教育長職務代理者

公民館の関係で地域交流センターについてお願いいたします。

文化芸術振興懇話会の件も少し含めましてですけれども、公民館のホールに関して結構御意見が出ていたと思います。とても皆さん期待しているところで、公民館のホールを、いいものをつくっていただきたいという御意見が多々ありましたので、文化芸術振興懇話会を今後どのように開催していくか、何か方向性があつたほうがいいのかと感じました。

あと、公民館と、文化会館、文化財団との連携とか、関わりとかがどうなるのかという皆さんの御意見もありましたので、その辺りを何か方向があればお聞かせいただければと思います。

○杉本市長

まず、今回、小ホールをつくるというのは、私が市長になってから、文化会館の小ホールが小ホールらしくなく体育館みたいで、どうしても靴で入るとなると、靴を脱がなきゃいけない、あそこでいろいろやるのは中途半端ということで、何とかつくっていただきたいというのがあつたので、ちょうど公民館の建て替えがありますのでどうかなあと思ってやっています。今いろいろと近代的なものがいっぱいできてきているので、それらを見させてもらう視察をします。

建物については、照明や音響など、できるところはやりますけれども、席は固定席にしようと思います。運営は、本格的なものに近くなってきたので、基本的にプロがやらないと運営できないと思いますので、そういう点では、大ホールを扱っている皆さんと一緒に関与してもらいたいのかと思っていました。しかし、公民館ということになると、公民館活動は文化活動と少し別なところがありますので、公民館長さんを置いて、引き続きやらしてもらおうと思っています。ですので、中に公民館長、図書館長さんがいて文化館も関わっていくということかなと思います。その上で何をどうするかということは今詰めています。

あとは、駒ヶ根市の大きな課題として、いろんな施設をうまく使う、文化振興事業団の皆さんもいて、どういう運営にするかということは大きな課題です。有効活用、それとか独立生計をどれだけやっていくか。今回も懇話会メンバー等、専門的な人に入ってもらっています。今回は小さいものなの、使い勝手はいいと思います。とは言え、ああいうものは、すべてにいいとはならないので、私自身、色んなところに行かせてもらいましたけれどこれは永遠の課題です。

音響や照明って、どこまでやったらいいかって、それぞれに違うんですよね。音楽は音楽用で違うでしょう。それから劇用は違うでしょう。ですので、少し検討してもらって、間に合わなければ後でもいいかなと思っていますのが、できる限りいいものをつくりたいと思います。予算もどうしてもとなれば、いろいろ考えて、そうしていくしかないです。要は、使ってもらいたいので、使う団体の皆さんにそういうところに関わってもらったほうがいいのかと思います。

○北澤教育次長

よろしいですか。

○北原教育長職務代理者

はい。

○下島委員

長野国体について、平成39年度ということで、10年先の話だけれど、先ほどの説明のとおり、いよいよ種目の選定という言葉が出てきていますので、スケジュールに入ってきたと思います。それで、市民としては、関心事だと思っておりますので、前はホッケーでしたが、皆さんから支持を得られるような種目をぜひ検討していただきたいと思います。

駒ヶ根市のキャッチフレーズが「アルプスがふたつ映えるまち」ということもあり、中央アルプスなり駒ヶ岳を控えているので、山に関するものが比較的駒ヶ根市のイメージとしては出てくるわけで、オリンピックにはフリークライミングみたいな種目が入ってくるということで、国体にあるかどうかは知りませんが、何か一つの案として、その辺りも入れて検討してみる必要はあるのかなと思っています。

いずれにしても、いろいろな角度から検討いただいて、市民の皆さんから支持が得られるような種目をぜひ御検討いただきたいなあと、選定いただきたいなあとと思います。

○北澤教育次長

そうですね。先日、県の説明会がありましたけれども、候補になるものを上げていくのですが、やはり市民の皆さんやスポーツやっている人から、こういったのをやりたいという希望の中から検討していくべきと事務局としては考えております。教育委員会の皆さんにも御相談していければと思っておりますのでよろしくお願いします。

○杉本市長

やはり、子どもたちもそうだけど、教育長さんがよく内からって言うけれど、本当にそうで、みんながやりたいというものが一番いいんですよね。いろいろなところが手を挙げると思うんで、幅広いろいろな人に聞いて、今回もホッケーということでもいいと思います。スポーツクライミングがありますので、そういう点ではおもしろいと思うし、ビーチバレーがあればビーチバレーもできます。弓道も、この辺りは強いですし。

いずれにしても、まずは体協のほうからいろいろ意見を聞きます。そういう中で、その方法がいいのか、またいろいろ考えていきたいと思っています。

○北澤教育次長

それでは、そろそろ予定の時間が参りましたので、この後、会議をまとめていきたいと思えます。なお、発表いただきました方針等につきましては、これに沿って事業を進めていき、いただきました御意見は、事務局で検討、調整してまいります。

次回の総合教育会議でございますが、3カ年実施計画の計画事業についてを主な議題とさせていただきます7月に開催を予定したいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして第1回の総合教育会議を閉じたいと思います。

ありがとうございました。

午後4時27分 閉会